

ご 注 意

地盤の許容応力度及び基礎杭の許容支持力は、国土交通大臣の定める方法によって地盤調査を行い、その結果に基づき定めなければならないと規定されています。(建築基準法施行令第93条)

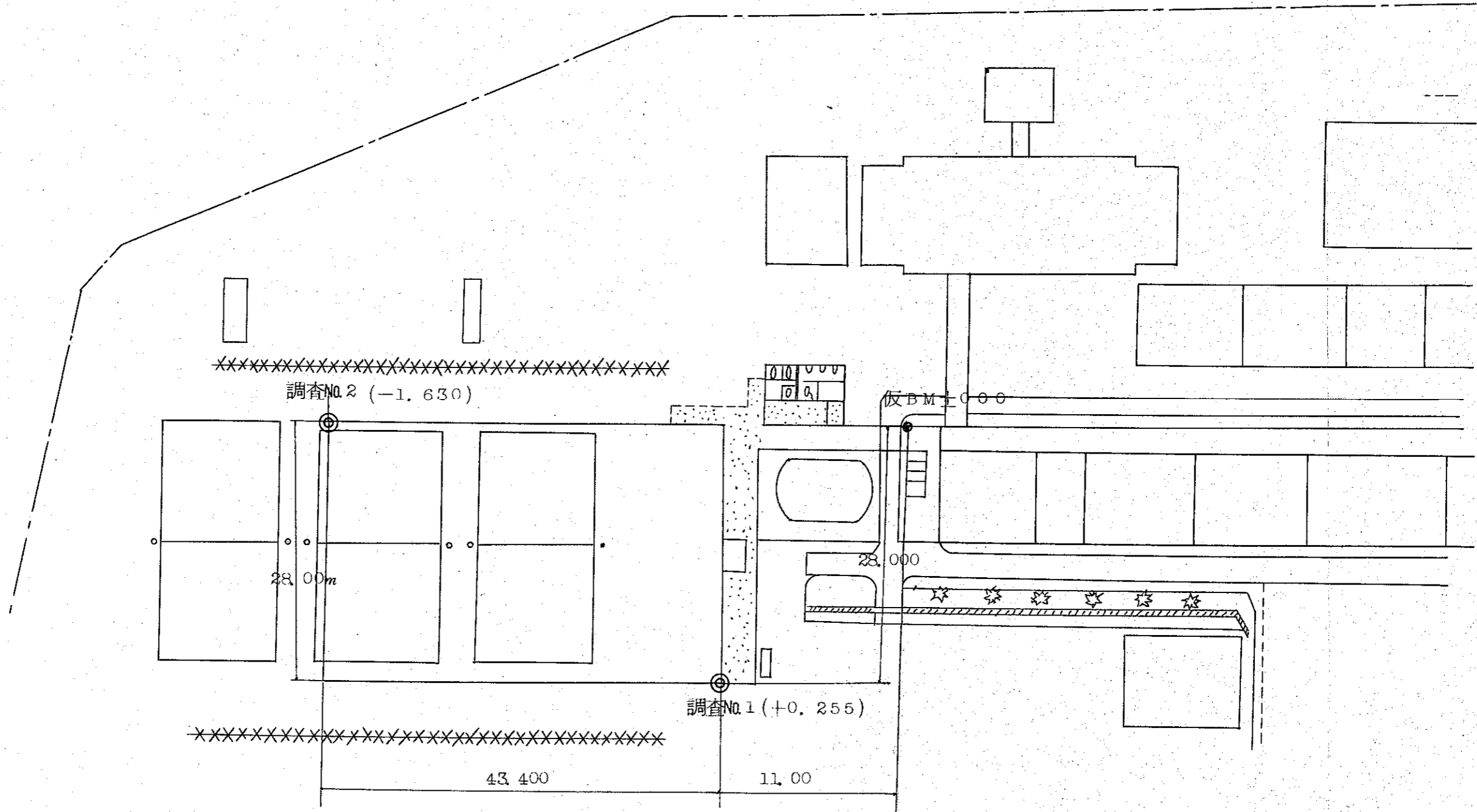
地盤構成並びに各地層の性状は、場所ごとに千差万別であることから、敷地（状況においてはその周辺も含めて）の地盤調査によって地盤構成等を的確に把握し、その結果に基づいて建物をどの地層に支持させるかを決定する必要があります。

したがって、本資料は計画段階における参考資料としてご活用ください。

栃木県土木部建築課

栃木県立真岡高等学校体育館新築工事地質調査位置図

◎ ボーリング位置



ボーリング柱状図

調査名 栃木県立真岡高校体育館新築工事 孔番 No. NO.1 地盤高 _____ m
 調査場所 地質調査 真岡市並木町 2-3 (基準面)

地 形 _____ 摘要 _____

調査期間 昭和53年11月 _____ 日 ~ _____ 月 _____ 日

地下(孔内)水位 GL-8.70 m

調査担当者 _____

標準貫入試験 打撃回数	原位置 試験深度 (m)	記採取深度 (m)	(柱) 試料 番号	考 備	土 質	土 色 調	土 質 記 号	土 層 厚 (m)	深 度 (m)	地下水位 (m)	性 質	
											相 対 密 度	粘 土 率
0												
1	1.15	1.2.1	1	ローム土 φ 40%~60%位の 礫混る。 少量の腐植物 混る。	盛土	暗褐色		1.50	1.50			
2	2.15	1.1.2	2		ローム	茶褐色		1.10	2.60			
3	3.15	1.3.2	3		鹿沼土	黄灰		1.10	3.70			
4	4.15	1.2.3	4									
5	5.15	1.1.2	5									
6	6.15	1.2.3	6	6 m 附近より 粘性強くなる。		茶褐色						
7	7.15	0.1	7									
8	8.15	1.3.0	8	8.40m~8.80m 間鹿沼土の塊 在り。		茶褐色						
9	9.15	0.3.2	9		ローム	色						
10	10.15	1.3.0	10	少量の腐植物 混る。								
11	11.15	1.3.1	11									
12	12.15	0.3.1	12									
13	13.15	5.8.8	13	上部風化礫多 く混る。 所々10cm内の層 厚の砂質土塊 在り。 1.5m 附近より礫 φ 20%~30%程 度の礫混入多い φ 60%~70%程 在り。		茶灰色		2.70	12.70			
14	14.15	3.5.3	14									
15	15.15	9.11.10	15									
16	16.15	14.15.21	16									
17	17.15	13.17.20	17									
18	18.15	6.11.13	18		砂			4.80	19.50			
19	19.15	9.12.14	19					1.25	20.75			
20	20.15	2.3.3	20		粘土	淡黄灰		1.00	21.75			
21	21.15	2.1.2	21		質土	暗灰						
22	22.15	18.2.2	22	所々礫60~100 %点在 10~20%φ位の 礫混入多い。	砂	褐灰色		2.10	23.85			
23	23.15	12.15.8	23									
24	24.15	3.5.6	24	幾分砂質	粘土	黄褐			24.45			

ボーリング柱状図

調査名 県立真岡高校体育館新築工事地質 孔番 No. No.2 地盤高 m
 調査場所 調査 真岡市並木町 2~3 (基準面)

地 形 摘要

調査期間 昭和 53 年 11 月 日 ~ 月 日

地下(孔内)水位 GL-8.0 m

調査担当者

